聖なる山

白山の山頂は、1 年の半分は雪に覆われています。その高くそびえる純白の山頂ははるか遠くからでも見ることができ、記録に残る歴史の中でずっと崇拝の対象となってきました。

白山は、雨、雪解け水、湧き水で平地に恵みを与えると言われる力強い神、白山姫（「白山の女神」）の住処と見なされています。白山市鶴来地区にある白山比咩神社と、山頂付近にある奥宮は、いずれも白山姫を祀っています。

白山を初めて登った人は、仏教僧で山岳修行者の泰澄大師（682 年～767 年）でした。彼は 717 年に、白山登山を宗教的な修行の一環として確立し、この習慣は千年以上にわたって続けられました。かつては、山の麓にある異なる神社から山頂へ続く 3 つの巡礼路が存在し、その一部は現在の登山道の一部に組み込まれています。

自然の恵み

周辺の住民は、古くから白山の恵みを崇めてきました。山頂から流れ出る清らかな水は、わさびやネギなどの農作物の灌漑に利用され、火山活動で温められた温泉は、人々に安らぎと癒しをもたらします。山の森は、野生のシダ、低木、竹、その他の植物（総称して「山菜」）を供給します。山菜は、冬の食料が不足し、新しい作物が収穫される前の早春に芽を出します。